

1 2期活動報告

広報委員会

広報委員会はグリーンニュースの編集を主な活動とし、第12期ではグリーンニュース85～95号を発行した。この間、コロナ感染症のため対面での会議を少なくし、メールでの稟議で編集作業を進めた。さらに、県担当者および広報委員の負担を軽減するためにグリーンニュースの編集作業手順を変更した。

変更前

- 1, 原稿を広報委員長およびサポートセンター（角張）が集める。
- 2, 編集委員長に集まった原稿はサポートセンターに送る。
- 3, サポートセンターにおいて編集作業を行う（サポートセンターは多忙のため原案ができるのは発行直前になる）。
- 4, メールによる稟議で校正などを行う（大変短期間での作業になる）。
- 5, 原案は代表などの確認を得てサポートセンターにて最終確認の後発行。

変更後

- 1, 原稿を広報委員長およびサポートセンター（角張）が集める。
 - 2, 広報委員長がワードにより原案をつくり、副委員長との間で校正を行う。
 - 3, 作成した原案を代表などの確認の後サポートセンターに送る。
 - 4, サポートセンターにて最終確認の後発行。
- ・これらの作業手順の変更によって編集作業は大幅に簡略化された。

その他の活動：

下記のイベントにて広報委員会としてグリーンニュースなどの展示を行った。

愛22回群馬環境フェスティバル（令和5年2月18日、19日 高崎）

第23回ぐんま環境フェスティバル（令和5年12月9日 群馬県庁）

環境フォーラム 2023(令和5年11月18日 群馬県庁)

広報委員会の今後の課題：

1, 投稿数について

これまでグリーンニュースは環境アドバイザーの活動紹介および記録として役立ってきたと思う。しかし、記事の投稿やグリーンニュースに対するコメントは非常に少ない。今後環境アドバイザーの活動を活発化し、グリーンニュースへの投稿を促す必要がある。

2, 編集ソフトの導入

現在グリーンニュースはワードで編集しているが、よりきめ細かい編集のためには編集ソフト（パーソナル編集長など）の導入が必要に思う。このソフトの導入によって現在8Pの紙面は大幅に縮小できると思う。